

緑豊かな自然の町、たちばなのお米

橘産

さがびより



平成27年6月20日発行

27年産橘産さがびより始動！

九州北部は6月2日に梅雨入りしました。

橘地区では雨の合間をぬって、小麦の刈り取りが行われました。麦刈り後の麦わらは土壌にすき込みます。麦わらは土づくりには有効で、すき込むことにより、土壌が膨軟になり、土の力となります。

麦わらをすき込んだ後は、田植えの準備に取りかかります。農家にとっては、麦刈りから田植えの時期

までは最も忙しい時期です。中でも、一番忙しい時期なんです。家族総出で協力し合うことで、不思議と家族の絆を感じることができるといいます。

昨年は「お米日本一」コンテストで金賞を獲得しました。今年の麦の秋は、昨年以上のおいしい橘産さがびよりのお届けを期待しています。今年がスタートしました。ただ今、佐賀は、田植えの真っ只中ですよ。



佐賀県知事・武雄市長が田植え奮闘！

山口祥則佐賀県知事と小松政武雄市長が、6月18日、「1」当地橘町の中島薫米スターの水田で、田植え体験を行い、「さがびよりのPR」のPRに「1」役を買って頂きました。田植え機は、一見簡単に見えるのですが、初めて操作する、なかなかうまく植えることはできません。佐賀新聞の記事にも掲載されていますが、「手植えをした」とはあるが、こんなハイクラスは初めて「の山口知事」も「右」といふ声を発しながら「OP」の水田を往復。しかし、「あんなに曲線を描くのは難しい」とのまわりの農家から笑いが漏れるほどの和気あいあいとした雰囲気、計画では「1」往復の予定でしたが、自らもう一度「再挑戦」。最初は失敗。2回目はタイミングがつかめた」と笑顔での田植え初体験であった。



田植えの後、おにぎりを食べるながらの懇談では、「さがびよりの（佐賀のり）の『有明海一番』と完璧合つたマイナブを披露」。皆様方もさがびよりに有明海一番を賞味下さい。

また、小松武雄市長も田植えに奮闘されました。小松市長は「曲がつて植えたため、秋の稲刈りには責任もって刈取にも来ます」とのこと。知事・市長とも和やかな懇談のなかで、「皆様の思いと価値をしっかりと形にしたい」との言葉をもらいました。

今回の田植え体験には、橘の地元の方々も奮闘されました。ほとんどは、猫の手を借りたような忙しい時期に、田植えの準備からおにぎりの準備まで、自分本位が進む時代のため、「故郷への思い」に感激するばかりです。そして、「橘産さがびよりの」が評価頂くのは、「故郷への思い」がお米の味にひと味加わっているからこそかも知れません。